

いじめに関する現状と課題

生徒の大半が隣接する小学校からの入学であるため、人間関係の幅を広げる機会が少ない反面、気心の知れた仲間が多く、男女間の関係も良好である。しかし、それゆえに他者配慮のない言動が見られたり、コミュニケーション不足から相手の身体や心を傷つけてしまったりすることがある。また、スマートフォンの普及による他校生徒等との交遊関係の拡大や、SNSが絡んだトラブルが増加の一途をたどっている。現状として、生徒のネット利用の実態を十分に把握することは難しくなっており、家庭や警察等との連携や協力が不可欠である。
学校生活における生徒の日常の些細な兆候を逃さないように、学級担任のみならず、複数の教員の視点で生徒に関わるように配慮しなければならない。そのため、本校の教職員全員で連携のとれた取り組みを行う必要がある。そして、いじめアンケート等を利用して、いじめの積極的認知、早期発見、早期解決に努めていく。

いじめ問題への対策の基本的な考え方

- (1) 生徒の主体的な活動を実施し、誰もが主体的に活躍できる行事及び機会を設けることで、自己有用感や充実感を感じられる学校づくりを推進する。
(2) (1)の達成のため、生徒自らによる全校集会を実施して委員会活動を活発に動かし、いじめのアンケートと教育相談週間の実施に相補関係を連動させる。また、教職員全体で道徳教育の充実を図り、生徒の豊かな情操、道徳心や社会性の育成に精励する。
(3) いじめへの対処については、被害生徒に寄り添いつつも、加害生徒及び周辺生徒からの事実関係の客観的な把握に早急に努める。このため、教職員が連携して組織的な対応を行うための体制を整備し、事案に応じて関係機関との連携を図る。
(4) (3)以後も、被害及び加害生徒への継続的な観察経過を行い、家庭と連携して情報等の共有を行う。また、必要に応じてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー(以下、SSWという)等の専門家の助言や協力を効果的に活用する。

Table with 3 columns: 保護者・地域との連携, 学校, 関係機関との連携. The '学校' column contains details about the 'いじめ対策委員会' (Anti-Bullying Strategy Committee), including its role, meeting frequency, and members.

学校が実施する取組

Table with 2 columns: 取組 (Measures) and 内容 (Content). It lists three main areas: ①いじめの防止 (Prevention), ②早期発見 (Early Detection), and ③いじめへの対処 (Response), with detailed descriptions of activities and goals for each.